

# 女性研究者の持続的育成と活躍促進に向けて



夢はバラ色

工藤 眞由美\*

For Promoting of Gender Equality in Reserch and Innovation

Key Words : diversity, female reserchers, work-life balance

## 1. もったいない国、日本

少子高齢化の進展など人口構造が大きく変化するなか、しなやかで活力ある社会を築くために、性別にかかわらず個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現は、21世紀の最重要課題と位置付けられています。ところが、日本では女性たちの力が発揮できていないのが現状です。研究者全体に占める女性の割合は、主要国と比較するといまだ低い水準にとどまり、第4期科学技術基本計画が掲げた女性研究者の新規採用割合に関する目標値（自然科学系全体で30%、理学系20%、工学系15%、農学系30%、医学・歯学・薬学系合わせて30%）も達成されていません。第5期科学技術基本計画でも引き続きこの数値目標が掲げられています。

大阪大学においては、平成28年4月に「男女協働推進宣言」を公表し、西尾章治郎総長のリーダーシップのもと、構成員一人ひとりがどのようなライフステージにあってもその個性と能力を最大限に発揮できるダイバーシティ実現に向けた取り組みを加速させています。多様な視点や優れた発想を取り入れ、科学技術イノベーション活動を活性化していくためには、女性の能力を最大限に発揮できる環境を整備し、その活躍を促進していくことが不可欠です。

## 2. 挑戦する女性の力が社会を変える

この度、大阪大学は文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（平成28年度～平成31年度）に採択されました。10年以上の研究教育連携の実績がある医薬基盤・健康・栄養研究所ならびにダイキン工業株式会社を共同実施機関として、産学官連携による「地域に生き世界に伸びる、女性研究者の持続的な育成と活躍推進」に向けた活動を開始しています。



本事業の特徴は、「女性研究者循環型育成システム」を形成し、多様かつ発展的なキャリアパスを提供することにあります。①クロスアポイントメントの積極的活用、②女性研究者がプロジェクトリーダーとなる共同研究、③社会人研究者の学び直し（学位取得によるステップアップ）、④女子学生のインターンシップを強化し、優れた女性研究者の持続的で発展的な育成をめざします。

クロスアポイントメント制度とは、協定に基づき、複数の機関に正規の身分で勤務することができる制度です。大阪大学は、国内外の研究機関とは派遣と受け入れを実施してきましたが、国立大学と企業の間では制度上の困難が多々あります。しかしそれら



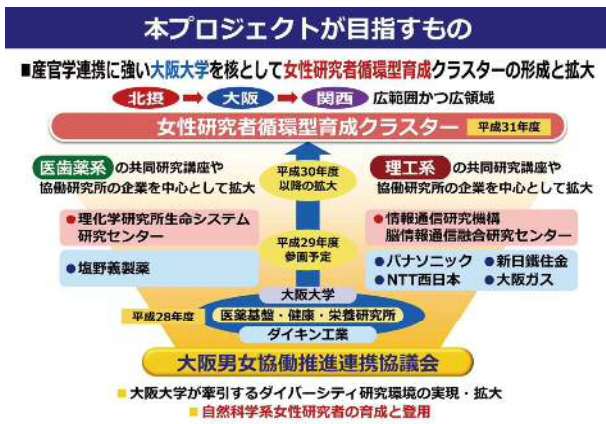
\* Mayumi KUDO

1949年12月生  
 東京大学大学院人文科学研究科言語学専攻  
 現在、大阪大学 理事・副学長  
 男女協働推進センター長  
 博士(文学) 日本語学  
 TEL: 06-6879-4063  
 FAX: 06-6879-4068  
 E-mail: kudo@mail.osaka-u.ac.jp



を乗り越え、平成29年4月から、ダイキン工業の女性研究者を、正規の教員ポストで大阪大学工学研究科に受け入れています。女性研究者がプロジェクトリーダーとなる共同研究は、医薬基盤・健康・栄養研究所との間で2件、ダイキン工業との間で3件、あわせて5つの分野で始まっています。

平成29年度には、NTT西日本をはじめとする5つの企業と2つの研究機関が協力機関として参画します。今後、大阪大学内に共同研究講座・部門や協働研究所を有する約60社の企業を中心に呼びかけを行い、大阪、そして関西の研究機関・企業との連携を強化・拡大させます。



### 3. 多様な働き方がイノベティブな研究者を育てる

女性活躍のためには、働き方改革が重要です。国際的にみて、日本の長時間労働の割合は高く、時間当たりの労働生産性は、OECD加盟34か国中20位となっており、1990年代後半から主要先進7か国

中最も低い状況が続いています。その結果、日本の夫（6歳未満の子供をもつ場合）の家事・育児関連時間は1時間程度と低水準です。大阪大学でも、介護との両立支援も含め、柔軟な働き方に向けた改革を推進していきます。

平成29年2月20日には、本事業のキックオフとして大阪大学シンポジウム「共創の好循環へー女性が輝く関西をめざして」を大阪国際会議場で開催し、産学官共創のあり方、これからの働き方を創り出す好循環の可能性を探りました。定員を大幅に超える400名以上の参加者が全国からあり、期待と関心の高さが伺えました。

来賓挨拶 13:30	文部科学省 貞先 正人 大阪府副知事(科学技術・学術政策担当) 独立研究開発法人 科学技術振興機構 相澤 登博 敬称	
第1部 13:50	講演 1 「なぜ、いま女性活躍か」 ●講師 村木 厚子 大阪大学男女協働推進センター 副センター長	講演 2 「女性の視点が会社を変える」 ●講師 村尾 和俊 西日本産科産院株式会社 代表取締役社長
	ダイバーシティ研究機構実用イノベーションのビジョンと取り組み	
第2部 15:25	西尾 崇治郎 米田 悦啓 澤井 克行 大阪大学 部長 新協賛 部長 産学連携 理事 長	パネリストディスカッション ●コーディネーター 工藤 真由美 大阪大学 健康・学術部長 男女協働推進センター 長
	村尾 和俊 西日本産科産院株式会社 代表取締役社長 村木 厚子 大阪大学男女協働推進センター 副センター長	米田 悦啓 協賛 部長 産学連携 理事 長 澤井 克行 ダイキン工業株式会社 執行役員 西尾 崇治郎 大阪大学 部長



### 4. 多様なロールモデルが次世代を育てる

次代を担う女子中高生が科学技術系の進路に対する興味関心や理解を深める取組を推進することも重要です。理工系については「暗い」「女子向きではない」「子育てが難しい」といった印象をもっている女子高校生が少なくありません。そこで、6月3日に、女子高校生とその保護者を対象とした産学連携の「理系進学を考えているあなたへ：のぞいてみよう！理系女子の「いま」－SciTech Girls in Handai－」を開催しました。今後もこのような取組を展開していく予定です。